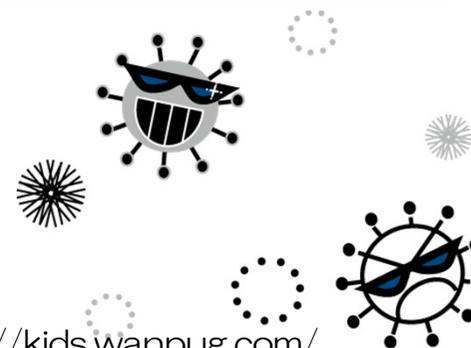


インフルエンザの検査

冬の時期、仕事（学校）から帰ってきて身体がだるいので熱を測ってみると38℃、もしかしたらインフルエンザ？ということがあるでしょう。当院を含めて多くの病院では、高熱と全身症状の原因がインフルエンザウイルスによるものかどうかを判別するために「迅速抗原検出キット」を用いて検査を行っています。細い綿棒を鼻やノドの奥に入れ、ぬぐい取った粘液が検査材料となります。患者さん（特にお子さん）にとってはこの「鼻の奥をグリッ」が、痛くてつらいところですね。

検査室に届いた綿棒は、特殊な液体に漬けて粘液を溶かし出し、その溶液を検査キットに滴下して発色の有無を待ちます。溶液中に一定量以上のインフルエンザウイルスいた場合、検査キット内の抗体と反応し、青色や赤紫色に発色する仕組みになっています。これにより、インフルエンザA型またはB型と判定され、お薬が出されます。

インフルエンザに感染するとウイルス1個は8時間後には100個、16時間後で1万個に増殖し、24時間では約100万個にまで急激に増殖します。発熱から12時間以内に検査を行った場合、ウイルスが体内に存在しているにもかかわらず数がまだ多くなっていないために、「陰性」に出る場合があります。そういう訳で「陰性」と判定された場合でも、周囲のインフルエンザの流行状況をふまえて発症翌日に再検査をして確認することがあるのは、こういう理由からです。



<http://kids.wanpug.com/>

A陽性



B陽性



株式会社 ミズホメディー HPより転載